

大久野通信 vol.27

老いてもなお輝く

JNCE

RBS



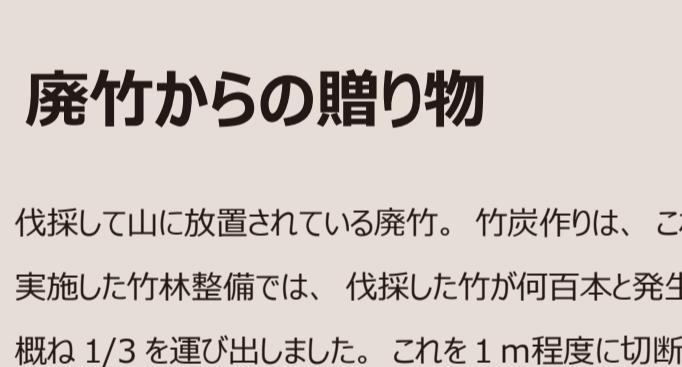
今年も残すところ 1 ヶ月を切りました。地球温暖化の影響か年々秋が短くなる印象が有りますが、大久野俱楽部の活動拠点周辺では今年も美しい紅葉が楽しめました。昨年、収穫直前イノシシに全て食べられてしまったサツマイモは、鉄柵と電柵で侵入対策を強化したこと、全く被害に遭わず収穫できました。農業実証と銘打つて始めた肥料の性能評価は、3 年目になってやっとまともなデータが収集出来るようになりました。

INDEX

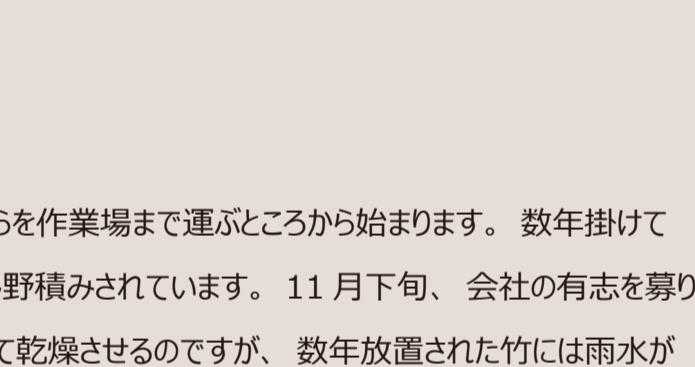
- ・さつまいもの収穫
- ・廃竹からの贈り物
- ・今後の展望

さつまいもの収穫

RBS ゴールドは、窒素とリン成分が豊富な一方で、カリ成分が不足しています。①肥料無し、②RBS ゴールドのみ、③RBS ゴールドにカリ成分として竹炭を加えたもの、以上 3 条件で実証しました。その結果、②と③が収穫数、重量共に優っていました。②と③の葉は色が濃く、葉の大きさも大きかったので光合成で得られる養分が多くかったと推察しています。痩せた土地でも育つと言われるサツマイモですが、収穫量には肥料が関係する様です。一方、食味（糖度）は①と③に比べて②が劣る結果になりました。なぜそうなるのかは、現在調査中です。



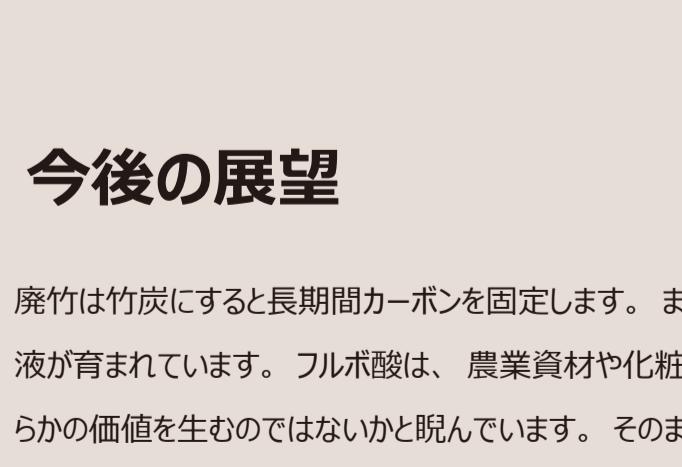
芋掘り前（左から③、②、①）



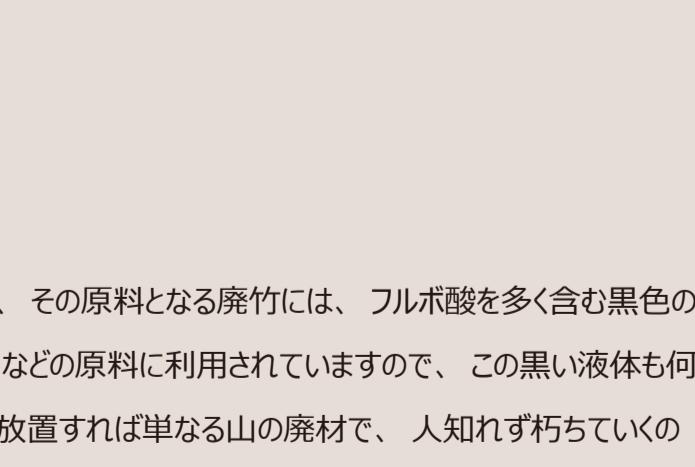
収穫全量

廃竹からの贈り物

伐採して山に放置されている廃竹。竹炭作りは、これらを作業場まで運ぶところから始まります。数年かけて実施した竹林整備では、伐採した竹が何百本と発生し野積みされています。11 月下旬、会社の有志を募り概ね 1/3 を運び出しました。これを 1 m 程度に切断して乾燥させるのですが、数年放置された竹には雨水が染み込んで茶褐色の液体が溜まっています。分析の結果、フルボ酸を主成分とした液体であることが判りました。言わば「かぐや姫」です。どんな過程を経て生成するのかは未だ解明中ですが、老いて朽ちようしながらも有価物を生み出しているのです。自然の営みは奥深いですね。



山から運んだ廃竹



廃竹から採取した液

今後の展望

廃竹は竹炭にすると長期間カーボンを固定します。また、その原料となる廃竹には、フルボ酸を多く含む黒色の液が育まれています。フルボ酸は、農業資材や化粧品などの原料に利用されていますので、この黒い液体も何らかの価値を生むのではないかと睨んでいます。そのまま放置すれば単なる山の廃材で、人知れず朽ちていくのみなのですが、実は有価物になり得る可能性を秘めているのです。里山には、まだまだこういった興味深い仕組みがあるのではないかとワクワクしています。里山が持つ潜在能力を明らかにすることで過疎化した地域を盛り上げることができたら、そんな展望を抱く、大久野俱楽部です。